■各種素材別耐薬品性能一覧

■ポリウレタン・PU

◎：全くあるいはほとんど影響がない。　△：なるべく使用しないほうがよい。
○：若干の影響はあるが条件により十分使用に耐える。×：大きく影響があるため、使用に適さない。

	薬　品　名	濃度重量%・温度℃	
無機酸	亜硫酸	10・RT	ー
	塩酸	10・RT	△
	塩酸	20・RT	ー
	塩酸	20・80	ー
	塩酸	38・RT	×
	王水		ー
	過塩素酸		ー
	クロム酸	2・70	ー
	クロム酸	5・70	ー
	クロム酸	10・70	ー
	クロム酸	25・70	ー
	クロロスルホン酸		ー
	酸洗液	硝酸20%＋フッ酸4%	ー
	酸洗液	硫酸40%＋硝酸15%	ー
	次亜塩素酸		ー
	シアン化水素酸		ー
	臭化水素酸	20・RT	ー
	臭化水素酸	20・70	ー
	臭化水素酸	37・RT	ー
	硝酸	10・RT	△
	硝酸	10・70	ー
	硝酸	30・RT	×
	硝酸	30・70	ー
	硝酸	発煙・RT	ー
	硝酸	61.3・RT	ー
	炭酸		ー
	ひ酸		ー
	ふっ化けい酸		ー
	ふっ化水素酸	10・RT	ー
	ふっ化水素酸	20・RT	ー
	ふっ化水素酸	40・RT	ー
	ふっ化ほう素酸		ー
	ほう酸		ー
	無水ふっ化水素酸		ー
	硫酸	10・RT	△
	硫酸	10・70	ー
	硫酸	30・RT	×
	硫酸	30・70	ー
	硫酸	98・RT	×
	硫酸	発煙・RT	ー
	りん酸	50・RT	ー
	りん酸	50・70	ー
	りん酸	75・RT	ー
無機アルカリ	アンモニア（無水）		ー
	アンモニアガス	冷	ー
	アンモニアガス	熱	ー
	液体アンモニア		ー
	カ性ソーダ（水酸化ナトリウム）	10・RT	○
	カ性ソーダ（水酸化ナトリウム）	30・RT	△
	カ性ソーダ（水酸化ナトリウム）	30・70	ー
	水酸化アンモニウム（アンモニア水）	28%	○
	水酸化カリウム		ー
	水酸化カルシウム		ー
	水酸化バリウム		ー
	水酸化マグネシウム		ー
	ヒドラジン		ー
有機溶剤	アクリル酸エチル		ー
	アクリル酸ブチル		ー
	アクリロニトリル		ー
	アセチレン		ー
	アセトアミド		ー
	アセトアルデヒド		ー
	アセト酢酸エチル		ー
	アセトフェノン		ー
	アセトン		△
	アニリン		△

	薬　品　名	濃度重量%・温度℃	
有機溶剤	アノン＝シクロヘキサン		ー
	アミルアルコール		ー
	アミルナフタリン		ー
	安息香酸ベンジル		ー
	イソオクタン		○
	イソブチルアルコール		ー
	イソプロピルアルコール		ー
	イソプロピルエーテル		ー
	エーテル（ジエチルエーテル）		ー
	エタノールアミン		ー
	エチルアルコール（エタノール）		○△
	エチルエーテル＝ジェチルエーテル		○
	エチルセルロース		ー
	エチルベンゼン		ー
	エチレンオキサイド		ー
	エチレングリコール		○
	エチレンクロルヒドリン		ー
	エチレンジアミン		ー
	エピクロルヒドリン		ー
	塩化エチル		×
	塩化ベンジン		ー
	塩化メチル		×
	塩素化溶剤		ー
	オクチルアルコール		ー
	オレイン酸		○
	カルビトール		ー
	ぎ酸	25・RT	△
	ぎ酸	50・RT	ー
	ぎ酸	90・RT	△
	キシレン		△
	クエン酸		○
	グリセリン		○
	クレゾール		ー
	クロロアセトン		ー
	クロロトルエン		ー
	クロロナフタリン		ー
	クロロホルム		ー
	ケイ酸エステル		ー
	けい酸エチル		ー
	酢酸	10・RT	ー
	酢酸	50・RT	△
	酢酸	50・70	ー
	酢酸	100・RT	ー
	酢酸アミル		ー
	酢酸イソブロピル		ー
	酢酸エチル		△
	酢酸セルソルブ		ー
	酢酸ブチル		×
	酢酸プロピル		ー
	酢酸メチル		ー
	サリチル酸		ー
	酸化ジフェニル		ー
	ジイソプロピルケトン		ー
	ジエチルエーテル		○
	ジエチルセパケート		ー
	四エチル鉛		ー
	ジエチレングリコール		ー
	四塩化炭素		△
	ジオキサン		○
	ジオクチルセパケート		ー
	ジオクチルフタレート		△
	シクロヘキサノール		○
	シクロヘキサノン（アノン）		×
	シクロヘキサン		ー
	ジクロロベンゼン		ー

RT：室温
※特にことわりのない限り水溶液の濃度は飽和状態です。
※耐薬品性一覧表は、あくまでも目安としての参考値ですので、実際のご使用は試験片などによる実用試験でご確認の上ご使用下さい。

■各種素材別耐薬品性能一覧

■ポリウレタン・PU

◎：全くあるいはほとんど影響がない。　△：なるべく使用しないほうがよい。
○：若干の影響はあるが条件により十分使用に耐える。×：大きく影響があるため、使用に適さない。

	薬　品　名	濃度重量%・温度℃	
有機溶剤	ジフェニル		ー
	ジブチルエーテル		ー
	ジブチルフタレート		△
	脂肪酸		ー
	ジメチルアニリン		ー
	ジメチルホルムアミド		×
	しゅう酸		○
	シュウ酸エチル		ー
	酒石酸		ー
	スチレン		△
	ステアリン酸		ー
	ステアリン酸ブチル		ー
	セロソルブ		ー
	炭酸ガス		ー
	タンニン酸		○
	テトラクロロエタン		ー
	テトラヒドロフラン		△
	テトラリン		ー
	トリアセチン		ー
	トリエタノールアミン		ー
	トリクレジルホスフェート		△
	トリクロロエチレン		△
	トリブチルホスフェート		ー
	トルエン（トリオール）		△
	ナフタリン		ー
	ナフテン酸		ー
	二塩化エチレン		ー
	二塩化メチレン		ー
	二酸化エチレン		ー
	ニトロエタン		ー
	ニトロプロパン		ー
	ニトロベンゼン		△
	ニトロメタン		ー
	乳酸		ー
	パークロルエチレン		ー
	ハイドロキノン		ー
	パルミチン酸		ー
	ピクリン酸		ー
	ピネン		ー
	ピペリジン		ー
	ピリジン		△
	フェニルヒドラシン		ー
	フェノール（石炭酸）		○
	ブチルアルコール（ブタノール）		○
	ブチルセルソルブ		ー
	フラン、フルラン		ー
	フルフラール		ー
	１１３フレオン		ー
	１１４フレオン		ー
	１１フレオン		ー
	１２フレオン		ー
	２１フレオン		ー
	２２フレオン		ー
	プロピルアルコール		ー
	フロロベンゼン		ー
	ヘキサアルデヒド		ー
	ヘキサン		○
	ヘキシルアルコール		ー
	ベンジルアルコール		ー
	ベンジルエーテル		ー
	ベンズアルデヒド		×
	ベンゼン（ベンゾール）		△
	ほう酸アミル		ー
	ホルムアルデヒド（ホルマリン）	40・RT	○
	マレイン酸		ー

	薬　品　名	濃度重量%・温度℃	
有機溶剤	無水酢酸		ー
	メタクリル酸メチル		ー
	メチルアルコール		○
	メチルイソブチルトン		ー
	メチルエチルケトン		△
	メルカプタン（チオアルコール）		ー
	モノクロル酢酸		ー
	リノレン酸		ー
	りんご酸		ー
その他（油類・その他）	亜硝酸アンモニウム		ー
	アスファルト		ー
	アニリン染料		ー
	亜麻仁油		ー
	亜硫酸ガス		○
	亜硫酸ナトリウム		ー
	硫黄		ー
	液化石油ガス		ー
	液体塩素		ー
	塩化（第二）水銀		ー
	塩化（第二）鉄		ー
	塩化亜鉛		ー
	塩化アルミニウム		ー
	塩化アンモニウム		ー
	塩化イオウ		ー
	塩化カリウム		ー
	塩化カルシウム		ー
	塩化第二錫		ー
	塩化第二銅		ー
	塩化チオニル		ー
	塩化ニッケル		ー
	塩化バリウム		ー
	塩化マグネシウム		ー
	塩素ガス（乾）		×
	塩素ガス（湿）		×
	ASTMオイル	NO.1	○
	ASTMオイル	NO.2	○
	ASTMオイル	NO.3	○
	オゾン		ー
	オリーブ油		ー
	過酸化水素	5・RT	△
	過酸化水素	5・50	△
	過酸化水素	30・RT	△
	過酸化ナトリウム		ー
	ガソリン		○
	過ホウ酸ナトリウム		ー
	過マンガン酸カリウム	10・RT	ー
	過硫酸アンモニウム		ー
	きり（桐）油		ー
	グリース		ー
	クレオソート油		ー
	ケロシン（灯油）		ー
	現像液（ハイポ）		ー
	鉱油		ー
	酢酸亜鉛		ー
	酢酸アルミニウム		ー
	酢酸カルシウム		ー
	酢酸鉛		ー
	酢酸ニッケル		ー
	酸素		ー
	次亜塩素酸カルシウム［高度さらし粉］		ー
	次亜塩素酸ナトリウム	5・RT	ー
	次亜塩素酸ナトリウム	5・70	ー
	シアン化銅		ー
	シアン化ナトリウム		ー
	塩水		ー

RT：室温
※特にことわりのない限り水溶液の濃度は飽和状態です。
※耐薬品性一覧表は、あくまでも目安としての参考値ですので、実際のご使用は試験片などによる実用試験でご確認の上ご使用下さい。